



全労連青年部ニュース

YOUTH TOPIC

つながる・たたかう・支えあう青年部を

ホームページ<http://www.zenroren.gr.jp/jp/seinen/>ブログ<http://blogs.yahoo.co.jp/zenrourenpower>

被爆者の想い引き継ぎ 核なき世界の実現へ 原水爆禁止 2019 年世界大会



世界の仲間・被爆者とともに核兵器「ゼロ」で笑顔溢れる世の中へ！

2019 年 8 月 5 日～9 日にかけて広島・長崎で原水爆禁止 2019 年世界大会が開催されました。今年の世界大会は、2020 年の被爆 75 周年・核不拡散条約（NPT）発効 50 年・NPT 再検討会議開催という節目の年を前にした大会でした。

全労連青年部や青年中央団体などで構成する Ring! Link! Zero 実行委員会は、長崎大会にて 7 日夜に青年による交流企画「Ring! Link! Zero2019 in Nagasaki」、8 日に第 9 分科会「青年のひろば」を企画運営しました。被爆者の方の想いを引き継ぎ、「核兵器のない世界」を実現するうえで自分たちに何ができるかを考えあいました。

「Ring! Link! Zero2019 in Nagasaki～被爆者とともに核兵器のない世界へ～」

運動への想いを若い世代へ…

8 月 7 日開会総会終了後に開催された青年交流企画「Ring! Link! Zero2019 in Nagasaki～被爆者」と

もに核兵器のない世界へ」には全国各地から約 450 人もの青年が参加しました。

本企画はシンポジウム形式で進められ、全労連青年部常任委員でもある全教青年部の市塚絢子さんが司会として参加、シンポジストとして日本被爆者団体協議会代表委員の田中熙巳(たなかてるみ)さん、札幌で平和運動にとりくんでいる道労連青年協のメンバーでもある西穂波さんが参加し、フロア発言で交流しました。

田中さんは、自身がどんな想いで核兵器廃絶の運動にとりくんできたかについて、「13 歳のときに長崎で被爆し、悲惨な死に方をする人々を見て戦争は絶対やってはならないと思った。戦後、アメリカの占領下にあった時代、被爆者は声を上げることが許されず、助け合うこともできなかった。ビキニ水爆実験をきっかけに、抗議の運動が広がるようになった。『ヒバクシャ国際署名』を決断した翌年、核兵器禁止条約が採択され、私たちのたたかいは決して間違っていなかった」と語り、「若い皆さんには対話を大切にしてほしい。世界の歴史や情勢を学びながら、対話を深め自分たちは今どこに立っているのか、将来どういう社会でどう生きていくかを考えてほしい」と青年たちに語りかけました。



それぞれの運動の想いを引き出す市塚さん



運動へ立ち上がったきっかけを話す西さん(左)と田中さん(右)

できることから始めよう

西さんは核兵器廃絶の運動に関わるようになったきっかけと、今までどのような行動をしてきたのかを話しました。「高校生のときに広島の世界大会に参加し、はじめて被爆者の方のお話を聞いてその一言一言に衝撃を受けた。核兵器の非人道性や脅威をより多くの人に伝えたいと思い、北海道に戻って世界大会へ参加したことを積極的に話したり、学校の授業の 15 分間をもらって報告したりと、自分にできることを探しながら活動にとりくんできた。札幌では 2017 年の核兵器禁止条約が採択された

年から全世界で呼びかけられた『平和の波行動 (Peace Wave)』に呼応して、札幌中心の青年を集め『Peace Wave SAPPORO』として署名宣伝行動などにとりくんでいる。この運動を通じて高校生との繋がりが増えつつある。私が高校生のときに感じた想い、その原点である世界大会を今の高校生にも経験してもらいたいと思っている。私たちが運動を続け、全世界の平和を願う人々と連帯すれば、必ず核兵器のない世界が訪れます。まずはできることから行動しよう!」と呼びかけました。

参加者からは「私たちが被爆者の想いを引き継ぐのは使命だと感じた。日本がどういう方向に進むのかを決めるのは、私たちだ」「地元に戻って自分も思ったことを行動に移してみたい。勇気づけられた」などの感想が寄せられました。

海外代表も参加し、国際青年リレー行進者 A・G・サニョさん(フィリピン)によるアートアタックが行われ、即興で田中熙巳さんのイラストを上下反転で描き進め、最後に用紙をひっくり返すことで完成させるというパフォーマンスを見せました。最後にこれからのさらなる行動を呼びかけ、「リング! リンク! “ゼロ”」のポーズで記念撮影。企画は大いに盛り上がりました。

第9分科会「青年のひろば」

多くの人たちの想いによって被爆者運動がある

翌 8 日の第 9 分科会「青年のひろば」では全国から 400 人の青年が参加しました。冒頭のオープニング学習会では映像作品「ナガサキの少年少女たち」を鑑賞し、被爆者証言として木戸季市(きどすえいち)さんに被爆体験を聞き、被爆の実相を肌身で感じることができました。木戸さんは「自分は



原爆投下後の長崎を映像で学ぶ参加者たち

式で被爆証言を聞く「体育館講演企画」、被爆者の方、語り部の方を最寄りの会場にお招きしてそこに訪問し少人数で被爆証言を聴く「訪問聴き取り企画」、被爆者の手記を、実際に証言の中に出てくる場所に訪れて読み合わせをする「追体験企画」、それぞれで参加者は学びを深めました。

被爆者の方の思い受け止め行動へ

訪問聴き取り企画では、参加者が息をのんで被爆者の方の話に耳を傾ける姿が見られました。話を聴いた参加者たちは、自身の運動への気持ちを語ったり、今の日本の態度をどう思うか？平和とは何か？など、思い思いの質問を投げかけたりしました。証言をしてくださった被爆者の方の一人、森口正彦さんは「長く続いた戦争の中で、日本は原爆を落とされた被害の面だけでなく、他国への加害の歴史もある。その中で核兵器反対の運動をする意味を考えてほしい」と参加者に語りかけました。



森口さんの問いかけに答える参加者たち

分科会の感想としては、「私たちが一人でも多くの人に核兵器とは何かを伝えることが、大きな運動に繋がるのだと被爆者の方が語ってくださった。自分の中のひとつの大きなテーマになった」「署名もととりくむが、学園祭で平和に関する企画の展示を実施したい」「被爆の実相を目の当たりにし、核兵器のない平和な世界を実現しなければならない、このほかに選択はないことがはっきりわかり確信になった。次の世代に伝えていくことを約束します」「学校では長崎に原爆が落とされたという事実しか学ばない。追体験企画に参加して、実際にその場所で当時の光景を想像することが貴重な体験となった」「全国から集まった若い人たちと思いを共有できたこと、同じ思いの人たちがいることを実感でき、エネルギーになった」などの声が寄せられました。

★全労連青年部第32回定期大会★

日時：9月28日（土）13：00開会（12：30開場）

29日（日）12：00閉会予定

会場：全労連会館2Fホール

当面の予定

被爆者とともに核兵器のない世界へ
——2020 年に向けて「核兵器はなくせる」展望を広げよう——

来年 2020 年は被爆 75 年の節目の年です。多くの青年は、「核兵器をなくしたい」「戦争のない平和な世界にしたい」という願いを持っています。被爆者の方々と共に広げた何十年にもわたる運動によって、この願いは世界的世論となり、2017 年にはついに核兵器を違法化する「核兵器禁止条約」が採択されました。北東アジアでは、北朝鮮と韓国・アメリカとの対話が始まり、朝鮮半島の非核化に向けた議論が進んでいます。いま世界は平和を求める人々の声と運動によって、核兵器をなくす大きなチャンスを切り開いています。

被爆者が生きているうちに核兵器のない世界を実現するために、世論を広げ世界各国の合意・実行を求めていきましょう。以下の行動を呼びかけます。

——被爆体験の継承に力をあわせましょう

私たちは被爆者の話を直接聞いて後世に伝えられる最後の世代です。少人数から被爆者の話を聞く会を開く、原爆パネル展や原爆の絵展の実施、被爆体験の読み合わせなど、被爆の実相を伝えるために被爆体験の継承に力を合わせましょう。

——展望伝え、署名を集めよう

初めて被爆者自らが核兵器廃絶を呼びかけた署名「ヒバクシャ国際署名」の国連提出は 2020 年 4 月 26 日です。NPT 再検討会議直前に開かれる予定の「原水爆禁止世界大会ニューヨーク」に合わせて計画されています。青年は核兵器をなくしたい思いと共に、「本当になくせるの？」という不安を抱いています。対話で「核兵器はなくせる」展望を伝えながら、幅広い青年と力を合わせ、署名を集めましょう。

——「安倍 9 条改憲 NO」「核兵器禁止条約に参加する政府を」の声を届けよう

日本政府は唯一の戦争被爆国でありながら、アメリカの「核の傘」にしがみついています。「核兵器禁止条約」への参加を拒否し、「戦争しない」と誓った憲法 9 条を変え「戦争できる国」にしようとしています。今こそ憲法 9 条の力を発揮し、日本が平和のイニシアティブをとるときです。安倍 9 条改憲を阻止し、「核兵器禁止条約」に参加する政府をつくりましょう。各地で、改憲をやめ核兵器禁止条約に参加する政府を求める青年の声を与野党議員に届けましょう。

——来年 8 月の世界大会を青年多数の参加で成功させよう

2020 年 8 月の原水爆禁止世界大会広島・長崎を多くの青年の参加で成功させ、「核兵器 NO」の青年の声を世界と日本にアピールしましょう。

2019 年 8 月 7 日
Ring! Link! Zero 実行委員会